

第7回 高大連携教育フォーラム

高大連携から接続教育への視座 ～高大で考える「生きる力」の育成～

日時 2009年12月4日(金) 10:00～17:15

会場 キャンパスプラザ京都

主催：京都高大連携研究協議会

第1部 基調報告(定員 200名) 10:00-12:45

開会挨拶 北村 聡 (京都高大連携研究協議会運営委員長・京都外大西高等学校校長)

10:10～10:50 基調報告

テーマ

高大連携でつくる新たな進路指導 ～将来を自らデザインする力を養うために～

報告者：塩瀬 隆之 (京都大学准教授)

10:50～11:40 シンポジウム

テーマ：高大連携から接続教育への視座
～高大で考える「生きる力」の育成～

パネリスト：前田 隆芳 (洗足学園中学高等学校校長)
中田 俊隆 (立命館大学理工学部副学部長)

11:40～12:15 質疑応答・意見交換・まとめ

コーディネーター：椋本 洋 (立命館大学教授)

12:15～12:45 事例報告 (30分)

テーマ：実践研究共同教育プログラム
「化学における仮説の探究」から

報告者：田内 浩 (京都府立山城高等学校教諭)

第2部 分科会 I (定員 各 200名) 13:45-15:15

分科会 A 【キャリア】

テーマ：高大におけるキャリア教育の現状と接続にかかわる教育課題

分科会 B 【入 試】

テーマ：センター入試の現状と課題

締切を延長いたしました
17日以降も先着順にお受けいたします

第3部 分科会 II (定員 各分科会 30名) 15:45-17:15

第1分科会 【表現技法】

テーマ：日本語表現法教育の接続と連携 ～高大教育現場で共有できるもの～

第2分科会 【数 学】

テーマ：生徒・学生の現実から出発する高大接続

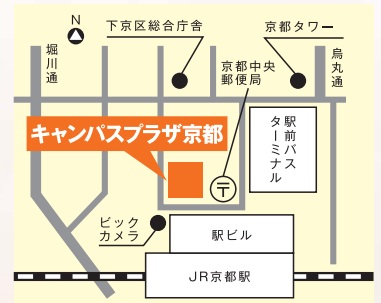
第3分科会 【英 語】

テーマ：異文化理解と海外研修旅行～授業改善に向けた高大連携について～

第4分科会 【理 科】

テーマ：高大で考える自然科学リテラシー

部分参加・
途中参加も
可能です。



●開催趣旨

「高大連携教育フォーラム」は、高校・大学間の連携・接続問題における「国内動向と京都における取り組みの情報発信と情報共有および事例研究」を開催趣旨として実施しています。

●基調報告概要

生徒・学生にとってもっとも大事なことは、自ら将来像を描くことである。ほかの誰でもなく、自ら描いてこそ自らの将来に責任をもてるようになる。そのために必要な力を養うためには、教育機関が密に連携して包括的な進路指導の体制を整備し、キャリアデザインを支援することが求められる。

選択肢から答えを選ぶ力よりも、自ら選択肢を作る力が必要となる。問題を上手く解く力よりも、問題を上手く作る力が何より必要となる。しかし現行の受験制度の下で、教科指導のみからこれらの力を養うには限界がある。

良くも悪くも、生徒・学生のまわりには選択肢や情報が満ちあふれている。悩むよりも先に膨大な選択肢が用意され、一つ一つの選択肢に他人の評価までもが併記されている。周囲の大人も時間制約を突きつけ、拙速な選択を要求する。ともすればその選択すら生徒・学生を代行してしまう。

自らの将来を大きく左右する就職活動は、当然のことながらセンター試験の選択肢から解答を選ぶことはまったく異なる決断が要求される。しかし、あたかもそれがはじめての機会のごとく、膨大な情報のまえに右往左往する大学生や大学院生は決して少なくない。キャリア教育に必要なことは、就業体験や詳細な情報だけでなく、自ら決断する力である。何が選択肢で何が情報かを自ら読み取る力である。高校と大学とが密に連携すべきは、この将来を自ら描く力を養う新たな進路指導の体制である。

申込方法

裏面の申込書にご記入の上、FAXにてお申し込みください。締め切り後に参加通知書をお送りいたします。

申込期限【先着順】11月17日(火)

先着順とさせていただきます、定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

定員：第1部200名、第2部各200名、第3部各30名

※第3部(分科会II)については、申込状況により、分科会割当をさせていただきます場合がありますが、ご了承ください。

参加費 (レジュメ・資料集含む)

・京都府内の高等学校・大学関係者 1,000円
・その他 2,000円

※当日、受付にてお支払い願います。

お問合せ先 (火～土 9:00～17:00)

大学コンソーシアム京都 高大連携事業部

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る

キャンパスプラザ京都

電話：075-353-9153 FAX：075-353-9101

e-mail:kyoiku-forum2009@consortium.or.jp

第2部 分科会 I 13:45-15:15

分科会 A (キャリア)

高大におけるキャリア教育の現状と接続にかかわる教育課題

キャリア教育は、「進学・就職を到達点とした進路指導・就職相談」から、「生徒・学生自身に自分の未来像を描かせ、その目標の実現方法を考え行動させる主体的な自己実現能力、言わば人生を「生きる力」の育成」に視点が推移している。その視点に立った時、キャリア教育は、生徒・学生の各年代に応じた教育内容でありつつも、学習した内容はその日から生涯に渡り日々実践してゆくことから、高大が接続された一貫した内容が望ましいといえる。

本分科会では、キャリア育成への取組・支援体制、課題等を高等学校・大学それぞれの立場から報告し、生徒・学生が人生を「生きる力」を効果的に身に付けるには、どのように高・大を接続してキャリア教育を進めていくのか議論を深めたい。

報告者： 易 寿也(大阪府立松原高等学校校長) 遠藤泰久(京都工芸繊維大学教授)

コーディネーター： 中川正明(京都産業大学進路センター・キャリア教育研究開発センターディレクター)

分科会 B (入試)

センター入試の現状と課題

来年1月、センター入試は満20歳(第21回)を迎える。高等学校、大学がセンター入試のどのような利点を生かし、不十分点を補ってこれを利用してきたか。特に、センター入試を経て大学入学を果たした学生たちが、受験準備や大学入学後の学習において積極的につかみ取ることができたのは何であったかを振り返る。

大学のアイデンティティは保証されているのか。完全マークシート、全国一律実施内容、各大学の二次試験への繋げ方をはじめセンター入試が持つメリットや今後克服すべき課題をふまえながら、送り出す側の高等学校と受け入れる側の大学のそれぞれの立場から、相手とのより有効な連携を図る上ではどのような論議や協力が可能か、などについて議論を深めたい。

報告者： 服部書法(滋賀県立国際情報高等学校教諭) 内村 浩(京都工芸繊維大学教授)

コーディネーター： 岡本直輝(立命館大学教授)

第3部 分科会 II 15:45-17:15

第1分科会 (表現技法)

日本語表現法教育の接続と連携 ~高大教育現場で共有できるもの~

これまで日本語表現法に関する実践は、大学と高校でそれぞれ別々に実践されたが、高大両者の連続性がないままでは、実践の継承ができないという問題を抱えている。

そこで、本分科会の目的の一つは、高大における日本語表現法教育の連続性を取り上げ、もう一つは、特に、高校における日本語表現法の授業内容を、国語に限定せず、いずれの教科でも活用可能な工夫を見出すことにある。

前者は、高校・大学双方の教員がどのような接続を意図していくのかについて、後者については、国語以外の他教科教員が関わりながら、どのように授業を連携させていくのかについて問題提起をおこなってもらう。

結論的には、高校・大学双方の発表を踏まえて、特に、高校現場でどのように授業を進めていけばいいのかについて、参加者と一緒に議論を深めたい。

報告者： 松澤 剛(北海道札幌藻岩高等学校教諭) 手嶋英貴(大阪女学院大学非常勤講師)

コーディネーター： 筒井洋一(京都精華大学教授)

第2分科会 (数学)

生徒・学生の現実から出発する高大接続

大学全入時代が到来し、生徒・学生の学力低下や学ぶことへの意欲の低下が叫ばれることが多くなった。同時にスムーズに大学教育に移行していくための高大接続の必要性も明らかになってきている。

本分科会では数学教育という側面から、高校・大学がそれぞれ目の前の生徒・学生に対してどのような指導をしているのかを報告していただく。大学生は大学に来るまでに、どんな指導を受けてきたのだろうか。また大学へ進学した生徒の実態はどうなっていて、大学ではどのような取り組みが必要になってきているのだろうか。

本分科会では実践報告から高校・大学それぞれの現状認識を深め、各校で実践できることのヒントが得られるように議論を進めたい。

報告者： 植田隆巳(大阪府立大手前高等学校教諭) 西川泰行(大阪工業大学教授)

コーディネーター： 酒井淳平(立命館宇治高等学校教諭)

第3分科会 (英語)

異文化理解と海外研修旅行 ~授業改善に向けた高大連携について~

東宇治高校では、2年次にオーストラリア(英語コース)とタイ(文理コース)での海外研修を実施している。海外を見る視点を培うこと、異文化を学ぶことの意義を踏まえて海外研修を準備し、生活習慣や文化に触れる中で調査研究の重要性や楽しさを生徒につかませていく授業を行っている。これは、平成20年度より高大連携実践研究共同教育プログラムにおいても取り組んでいるところである。

『異文化理解 発見と喜び』につながる海外研修に向けての準備にどのような工夫を行えばよいか。英語の授業ではどのような取組が可能か。本分科会においては、学校の取組について報告するとともに、授業改善に向けた高校と大学の連携について議論を深めたい。

報告者： 平尾悟史(京都府立東宇治高等学校教諭) 松本真治(佛教大学准教授)

コーディネーター： 吉川 孝(京都府教育庁指導部高校教育課指導主事)

第4分科会 (理科)

高大で考える自然科学リテラシー

理科の学習が大切で重要だという高校生の意識が低いという課題などがある中、高等学校学習指導要領が改訂された。理科の改訂趣旨の中では「基礎的な科学的素養を幅広く養い、科学に対する関心を持ち続ける態度を育てる」ことが要点の一つとして挙げられている。

本分科会では、高校で独自の科目「自然科学リテラシー」を開講し先進的に取り組んでいる事例報告や大学の教員養成課程で行われている理科教育の研究報告をもとに、今日の「知識基盤社会」を生きるために必要な基礎的素養を養うことについて高大で議論を深めたい。その際、今求められている科学と日常生活や社会との関連、探究的な学習活動を充実させるためにどのようなアプローチが必要かについても協議できればと考えている。

報告者： 有本淳一(京都市立塔南高等学校教諭) 村上忠幸(京都教育大学教授)

コーディネーター： 大窪英行(京都市教育委員会学校指導課指導主事)

第7回高大連携教育フォーラム参加申込FAX送信用紙 (FAX 075-353-9101)

所 属			フリガナ 氏 名		
役 職			担当教科		
連 絡 先	住 所	〒			
	TEL		FAX		
	E-mail				
参加希望される基調報告・分科会について回答してください。(部分参加・途中参加も可能です)					
第1部 (基調報告) 10:00~12:45	参 加 ・ 不 参 加				
第2部 (分科会 I) 13:45~15:15	参加	()分科会A【キャリア】 ()分科会B【入 試】 ※どちらかに○をしてください。	不参加		
第3部 (分科会 II) 15:45~17:15	参加	第1希望 第()分科会 第2希望 第()分科会	不参加		

(お聞きになりたいテーマや問題を感じている点等がありましたらお書きください。)

※本フォーラムは部分参加・途中参加も可能となっておりますが参加費の割引などはございませんので予めご了承ください。